

重症化遺伝子 解明か

新型コロナウイルスによる日本

の死亡率が欧米より低い背景を遺

伝子レベルで探る慶応大、京都大

などの共同研究グループが1千人

分超の患者の血液検体を収集、症

状別にゲノム(全遺伝情報)の解

析を進めている。重症化をもたら

す遺伝子「X」の特定を目指し、

来月上旬にも最初の研究成果を公

表する見込み。将来的に患者の症

状の変化を早期に予測し、適切な

治療で医療崩壊防止につながるこ

と期待される。

共同研究グループ「コロナ制庄

タスクフォース」を統括する慶応

大の金井隆典教授(内科学)によ

ると、遺伝子分析に必要な感染者

の血液の提供に協力する医療機関

は、5月の発足時の約40施設から

約120施設に拡大。すでに当初

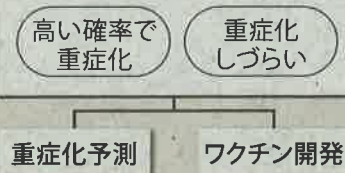
目標の600人分を大幅に上回る

約1300人分の血液検体が集ま

新型コロナウイルス重症化 要因解析のイメージ



重症化に関与する 遺伝子「X」を特定



金井氏は「Xの塩基配列の変異に個人差があり、A型は非常に高い確率で重症化する、B型は重症化しづらいことが分かったとす

日本人死亡率が低い秘密? 慶大など来月にも研究成果

る。患者がA型かB型かで重症化予測が可能となり、入院が必要か、自宅療養で問題ないかなど適切な措置につながる」と説明。「将来的にPCR検査と遺伝子検査をセットで行えば、医療崩壊を防ぐ手立てになり得る」と期待する。

特に重症化リスクが高い要件に該当しない、若者で持病もないのに重症化した事例に着目。重症化に関わるとされるサイトカインストーム(免疫の暴走)に、特定の遺伝子が影響していないかを突き止める。遺伝子Xが特定されれば、治療法やワクチンの開発、予防に応用できるといふ。

回復した人の血液からも解析は可能で、最終的に計約3千人分の検体収集を目指す。

金井氏は「後遺症の遺伝的背景などの分析も可能になるかもしれない。国民が不安に感じているであろう新型コロナウイルスの実態を伝えることができれば有意義だ」としている。